



LIXIL ART NEWS \_ No.360

# 西野康造展

*Kozō Nishino*

*S p a c e*

*M e m o r y*

「Sky Memory」 2009-2013年 チタン合金 直径30m(半円状) 4 World Trade Center(NY) 撮影：豊永政史

2014年4月18日(金)～5月27日(火) 水曜日および5月25日(日)休館 10:00a.m.～6:00p.m. 協力：アートコートギャラリー

——西野さんはこれまで金属による彫刻を制作されてきました。時には可動性を持ち、微かな風にそよぐ作品は、テーマとされている空や宇宙の壮大なイメージを体現されています。2013年秋には、ニューヨークの9.11メモリアルパークに面して建てられた「4ワールド・トレード・センター」に「スカイメモリー」を設置されました。この作品はどのような思いでつくられたのでしょうか。

**西野**：僕の作品は自然現象をテーマとしてきましたが、特に空に関しては、少年期の体験から日が暮れていくときに自分自身が吸い込まれていくような、どこまでも広がる空や宇宙への憧憬から始まります。そうした自然への畏怖は人間存在へと広がり、僕自身にとって作品を制作するということは、記憶の中にある見えないものをつくいる行為だと考えてきました。

「スカイメモリー」を制作していた4年間は、事件の衝撃と痛みを改めて感じる時間でもありました。傷ついた人々が未来へ向かうのに役立つ作品にという願いから、空には人の心を慰める力があることを信じ、タイトルを「スカイメモリー」とつけました。

作品は二つの弧からなりますが、二つに分けた理由は、ひとつの輪になるのは国境を越えてみんなが仲良くなる時であり、今はまだそこに至っていないこと、微かな風にそよぐ作品は世界が揺れ動いていることを表わしています。

しかし、制作後半になって形が見えてきた頃から最初とは違った思いを持つようになりました。空に対する僕の心にある記憶を表現しようとしていたはずなのに、少し大袈裟に聞こえるかもしれませんが、浮いて見える作品自体が空となり、その空が我々、少なくとも僕を見つめているように感じました。出来上がったものはその空自体の記憶、「我々の過去の行為をどこからか見つめていた、その記憶」を持った作品になったような思いを持っています。

面白いことに、ホールの全面ガラス張りの道路側

と、反対側の漆黒の石壁に映りこんだ時にひとつの円環に見ることがあるんですよ。

——金属による作品は近くで見ると力強い印象がありますが、会場や建物に設置されると繊細なイメージで、「スカイメモリー」の展示写真からも日本人の感性ということを改めて感じました。

**西野**：学生時代に制作した作品で遺跡をテーマにしたものがありますが、その時も、そこに人が暮らしていたという事実と、でも今はそこに人がいないという事実から、せつなさ、虚しさということを表現していました。「スカイメモリー」の表現は違ったものにはなりましたが、思いはその頃と変わりません。言葉にすると、微かな、せつない、限りないと言ったようなものになりますので、それが日本人特有の感性として映るのかもしれない。

——幾種類もの金属を素材とされていますが、作品イメージとの関係性はありますか

**西野**：子どもの頃から科学や空や宇宙に興味があったので、小学生の頃はパイロットやエンジニアになりたかったんですが、美術に関心を持って大学で彫刻科に進んだ時に、素材は木や石のように削るのではなく、足し算のできる鉄に惹かれて制作を始めました。

それが卒業制作の時、鉄をピカピカに磨いた作品が大学の買い上げ賞を受賞したのですが、10年後には錆びて元の姿でなくなるために辞退することになりました。それから完成時の状態を保ちたい作品にはステンレスを使うようになりました。「風の中で」(1988)は楽器の質感を出すためにステンレスを使いました。僕は彫刻をつくることによって、不確かで目には見えないが確実に存在している何か、例えば蜘蛛の巣のように、それ自体ははっきりと見えなくても、光が当たるとさっと現れ、雨が降れば水滴によってその輪郭を浮き上がらせる何かを追求したいと思っていましたので、「風の中で」のような、ある瞬間輝いてみる作品にはステンレスの輝きが必要だと思いました。

最近ではチタン合金パイプを使う頻度が増えていま



「宙を行く」 2004年 チタン合金、ステンレス、アルミ 15m

す。僕のモットーとしている繊細でダイナミックな表現が可能で、屋内で展示する可動性のある作品が出来たのはチタン合金があったからです。

翼の作品を作り始めた頃、一般にもチタンが出て

きたんです。チタン合金はステンレスの56%の重量なので、実質的には同じものを作っても4、5倍の強度と考えることができます。ようやく自分が作りたい作品の素材に巡り合えたと思えました。

実は、チタン合金パイプを使い始めた初期、自分で無垢の棒の真ん中に孔を開けて外側を旋盤で削ってパイプをつくっていたんです。ある時チタン協会から、彫刻家として講演をして欲しいと依頼がありました。そこでチタン合金パイプ制作の苦労話をしたところ、協会員からアメリカにパイプを作っているメーカーがあることを紹介されました。当時日本にはなかった航空機や宇宙産業の関連会社でした。遠回りをしましたが、僕が求めていたものがアメリカにあって現在の作品に繋がりました。そして、業界には鉄砲の銃身を抜いたり、長い孔を開けたりする専門の会社があることもわかり、依頼できるようになりました。孔開けは非常に困難な作業なので、よくやっていたねと褒められたものです。

——作品からは空を翔る鳥の羽や昆虫の翅を連想します。どのように制作をしているのでしょうか

**西野**：大きな作品はトラス構造を手作りすることもありますが、有機的な表現には合いませんので、木の枝や葉脈、セミやアブの翅などをスケッチし、



「この空のもてで」 2006年 チタン合金、チタン、ステンレス 13×16×2m 清水駅、静岡

針金を使ってそれらを作っているうちに、自然と今のような表現になりました。

僕は普段から目に入ってくるもの、経験したことを記号に変換して記憶するということよりも、映像のままに心に残す、つまり感覚的に物事を捉えることが多いんです。言葉にしたり文字にすると、その感動が急にしぼんでしまうような気がします。制作の方法も同様で、精密な設計図は無くても、手で金属線を曲げながら、微妙な曲線を描いていく地道な実験の繰り返しで、機を織るような手仕事です。

——今展の作品はどのようになりますか

**西野**：「スカイメモリー」に続き、「スペースメモリー」を制作しています。いつも場所に合わせて制作するので、今回は直径5.9m、重さ10kgの円環が壁から会場全体に形をのばした作品になる予定です。この作品の円環には永遠のイメージがあります。

僕は空気や風を感じさせるものを作ろうとしていますが、僕の彫刻は、大いなるものに抱かれながら生きている人間をも表現するものであって欲しいと思います。決して冷たいものでなく、僕自身の体温が見る人に伝わればといつも願っています。



## 西野 康造

Kozo Nishino

1951 兵庫県生まれ
1977 京都市立芸術大学彫刻専攻科修了

個展

2014 アートコートギャラリー(大阪)[2004]
2011 本郷新記念札幌彫刻美術館(北海道)
2004 スパイラルガーデン(東京)[1997、1992]
2000 INAXギャラリー(東京)
1997 富山市民プラザ(富山)
1986 ギャラリー 16(京都)

主なグループ展

2012 Reactivation－第9回上海ビエンナーレ(上海当代芸術博物館)
2009 Sculpture by the Sea(オーフス、デンマーク)
2008 Sculpture by the Sea(シドニー、オーストラリア)
2005 第21回現代日本彫刻展(宇都市野外彫刻美術館／山口)[1999、1997、1989]
2001 金浦国際野外彫刻展(金浦、韓国)
2000 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2000(新潟)
1996 アートは楽しい 7IN/OUT(ハラミュージアムアーク／群馬)
1992 都市の指標－現代彫刻と環境展(日本橋高島屋／東京)
東京アートエキスポ特別企画展(東京国際見本市会場)
1990 小田原城野外彫刻展(小田原城址公園／神奈川県)
1989 せとびエンナーレ(広島)
今日の造形 6(岐阜県美術館)
1988 第11回神戸須磨離宮公園現代彫刻展(神戸市立須磨離宮公園)
1987 第5回ヘンリー・ムーア大賞展(美ヶ原高原美術館／長野)[1985]
1986 第16回日本国際美術展(東京都美術館、京都市美術館)[1984]
1985 京都府美術工芸選抜展 1985(京都府立文化芸術会館)
現代日本美術展(東京都美術館、京都市美術館)
1984 京都美術展(京都府立文化芸術会館)[1981]

主な受賞

2011 第15回本郷新賞
2002 長野市野外彫刻賞
2001 第32回中原伸二郎賞 優秀賞
1997 第17回現代日本彫刻展 毎日新聞社賞
1995 第6回AACA賞 特別賞
1990 小田原城野外彫刻展 大賞
1989 第13回現代日本彫刻展 東京国立近代美術館賞
1988 第11回須磨離宮公園現代彫刻展 朝日新聞社賞 埼玉県立近代美術館賞

主な収蔵先・設置場所

【海外】

2013 4World Trade Center(4ワールド・トレード・センター／ニューヨーク、アメリカ)
Power Station of Art(上海当代芸術博物館／上海、中国)
キャンベラ(オーストラリア)
2012 Hannam The Hill Sculpture Park(ハンナム・ザ・ヒル・スカulptチャー・パーク／ソウル、韓国)
2008 シドニー(オーストラリア)
2001 Gimpo Sculpture Park(金浦国際彫刻公園／金浦、韓国)

【国内】

2013 ワチラス(東京)
2010 創成川公園(北海道)
2007 JR清水駅東口(静岡)
2005 山口大学付属病院(山口)
2003 北海道療育園(北海道)
しもだて美術館(茨城)
JR相生駅前(兵庫)
2002 JR長野駅東口(長野)
2000 凸版印刷株式会社本社ビル(東京)
十日町市(新潟)
1999 霧島アートの森(鹿児島)、片倉公園(山口)
1998 富山市国際会議場(富山)
1997 緑と花と彫刻の博物館(山口)
1995 茅ヶ崎公園プール(神奈川県)
1994 アクトシティ浜松(静岡)
1993 大橋公園(長崎)
1989 東京国立近代美術館(東京)
島ごと美術館(広島)
1988 埼玉県立近代美術館(埼玉)
1985 京都府立総合資料館(京都)

個展

個展

個展

個展

個展

個展

LIXIL GALLERY
東京都中央区京橋3-6-18東京建物京橋ビル LIXIL：GINZA 2F
phone 03-5250-6530
制作発行：株式会社LIXIL デザイン：SOUVENIR DESIGN INC.
http://www1.lixil.co.jp/gallery/



「空の向こう」 2007年 ステンレス 直径14m 清水駅、静岡



「たそがれの緑」 2004年 チタン合金、石 直径3m